

平成21年度 世界遺産登録推進担当の取組方針結果報告

1 職員の意識改革

○取組事項名 全職員が業務目標達成に向けて共通の理解と認識を持つことを徹底します

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

1 部内会議の実施

部内の情報共有化の促進と全職員が業務目標達成に向けて共通の理解と認識を持つために、次の打ち合わせを実施しました。

(1)全職員参加の部内会議(月1回) 1月まで計10回実施 1回2時間程度

- ① 4月 9日(木) ②5月18日(月) ③ 6月5日(金) ④ 7月3日(金)
⑤ 8月11日(火) ⑥9月16日(水) ⑦10月8日(木) ⑧11月6日(金)
⑨12月10日(木) ⑩1月13日(水) ⑪ 2月 4日(木) ⑫ 3月5日(金)

(2)係長以上職員による業務打ち合わせ(週1回)をほぼ毎週実施しました(計47回)

1回1時間程度

○4月20日(月)から開始し、基本的に毎週月曜日に実施中

○4月(2回)、5月(3回)、6月(5回)、7月(4回)、8月(5回)、9月(4回)
10月(4回)11月(5回)12月(4回)1月(4回)、2月(3回)、3月(4回)

2事故防止研修の実施

11月6日(金)9:00~10:30に、全職員により意見交換形式の事故防止研修を実施しました。事故などに対する意識啓発を図るとともに、文書や電子データの管理などの徹底を図ることを決め、実践しました。(Xドライブのたな卸しの実施等)

【その評価】

○ 1年間、欠かさず職員間の打ち合わせなどを行ったことは、大いに評価できる。これにより、十分な情報共有を図ることができ、次項目にもある無事故につながったと考える。

(今後の方針)

○引き続き、情報共有などのため、打ち合わせなどを実施してまいります。

2 業務点検(コンプライアンスの確保を含む)

○取組事項名 相互チェックの強化等により適切な業務遂行を図ります。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

事故防止に向けて、訪問記録の復命の徹底などを行い、職員相互チェック機能を高め、今年度、ケアレスミスを含め無事故となっています。

○ 事故防止研修の実施(再掲)

11月6日(金)9:00~10:30に、全職員により意見交換形式の事故防止研修を実施しました。事故などに対する意識啓発を図るとともに、文書や電子データの管理などの徹底を図ることを決め、実践中です。

【その評価】

○ 外部に影響を与えるようなケアレスミスもなく、無事故であったことは、大いに評価できる。

(今後の方針)

○ 業務遂行上、引き続きケアレスミスも含め、無事故を目指してまいります。

3 市民からの信頼回復

○ 取組事項名 市民と共に世界遺産登録を目指します。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

1 協議会活動への参加の呼びかけ

世界遺産登録を市民と協働して進めることから、鎌倉世界遺産登録推進協議会の活動(以下「協議会」)等への参加を呼びかけました。また、呼びかけのための啓発チラシを作成し、窓口配架するとともに、国際会議や各種イベントで配布いたしました。

2 パネルの作成

本年度の新規事業として、協議会活動への参加を呼びかけるパネルを作成し、市民活動フェスティバルで掲示しました。

3 広報コーナーの設置

「世界遺産登録推進広報コーナー」を鎌倉生涯学習センター1階部分へ開設し、広報機能の充実を図りました。

10月16日(金)開設

4 出張講座などの実施

ひろく世界遺産登録の内容、意義などを市民、県民へお伝えするため、市職員が出張して講座などを開催しました。

実績：42回実施 講座出席者延べ1809名

5 ホームページの充実

ホームページの充実を図るため、協議会において、ホームページ検討実行委員会を設置し、地域でネット関係の市民活動をしている方々に呼びかけたところ、数名の方が新規に参加しました。(新規事業)

6 地域との連携

地域と広く意見交換を図るため、協議会において、意見交換事業実行委員会を設置し、自治・町内会等、地域活動に経験の深い方に参加を呼びかけたところ、新たに数名が参加、「地域との意見交換」を企画・実施しました。（新規事業）

日 時 11月25日（水）

テーマ 「世界遺産登録推進のための意見交換会」

参加者 大船・玉縄地区の町内会長、協議会関係者 計17名

【その評価】

○市民とともに、世界遺産登録に向けた様々な取組みを行うことができたことは評価できる。

（今後の方針）

○引き続き、世界遺産登録に向けて、市民とともに様々な取組みを進めてまいります。

4 子どもが元気に育つまち

○取組事項名 学習活動に活かせる取組を推進します。

（取組結果およびその評価）

【取組結果】

1 子どもたちへの周知、啓発

鎌倉の次世代を担う子どもたちに対して、世界遺産登録活動をお知らせし、鎌倉の歴史や文化財に関する理解を深め、郷土愛を育む一助とします。

平成21年6月18日 市世界遺産登録推進担当職員が講師とした出張講座を行う旨の文書を市内の学校へ送付。

送付先 市立小中学校、市内私立中高等学校、市内県立高等学校

○ 文書送付後、数校から問い合わせがあり、実施しました。

実績 平成21年10月16日 第一小学校（120名）

平成21年12月7日 足立区立栗島中2年（117名）

平成22年1月19日 岩瀬中学校 145名

平成22年2月 鎌倉女子大学初等部5年生

2 教職員対象の研修の実施

鎌倉市教育センター主催の教職員を対象とした夏季研修会に世界遺産登録推進担当職員が講師を努め、鎌倉の歴史的遺産の価値と世界遺産登録に向けての理解をテーマとした研修を実施しました。

日 時 平成21年8月5日（水）9:00～12:00

場 所 朝夷奈切通

参加者 市内小中学校教職員、市内幼稚園教諭・保育園保育士 計32名

【その評価】

○ 次代を担う子どもたちに周知することができたことは評価できる。

（今後の方針）

○ 今後も、子どもたちへの周知活動を強化してまいります。

5 高齢社会への対応方針

○取組事項名 高齢者の世界遺産登録活動への参加促進を図ります。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

1 協議会活動への参加呼びかけ

世界遺産登録を市民と協働して進めることから、協議会等への参加を呼びかけました。また、呼びかけのための啓発チラシを作成し、窓口に配架するとともに、国際会議や各種イベントで配布いたしました。(再掲)

2 関係団体との連携

地元自治会(材木座自治連合連絡協議会)、鎌倉市老人クラブ連合会が主催する国指定史跡「和賀江嶋」清掃・保全活動に対し、協議会のシンボルマークをプリントしたタオルを配布、参加者に世界遺産登録活動への参加を呼びかけました。(老人クラブ連合会との連携は新規取組み)

【その評価】

○老人クラブ連合会との連携など、新規取組みが行われたことは評価できる。

(今後の方針)

○今後も、協議会活動への参加呼びかけや、連携を深めてまいります。

6 重要な取組事項

○取組事項名 ①対象候補遺産に関する準備業務を推進します。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

○保存管理計画は、候補資産の社寺についてすべて策定することができました。

○管理団体指定については、地権者への説明を実施するとともに、県、国と調整を進めました。

【その評価】

○保存管理計画がすべて策定できたことは評価できる。管理団体指定において、地権者の同意取得に向けて、粘り強く説明するなどして、一定の整理ができたことは評価できる。

(今後の方針)

○管理団体については、これまでの実績などを基に、国と今後の方針について調整を進めてまいります。

○取組事項名 ②国への推薦要請を実施します。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

○ 推薦要請の前提となる2回の国際会議(平成20、21年度に各1回)を開催し、これにより、推薦書基礎資料の熟度を高めました。

第2回国際会議の開催(平成21年7月30日(木)～8月2日(日))

(参考 第1回国際会議の開催(平成21年1月29日(木)～2月1日(日)))

○ 推薦書基礎資料をベースとして、今後は、国と4県市が連携を強化して、推薦書作りに向かうため、4県市が、文化庁長官に対し、推薦要請を実施しました。

推薦要請日 平成21年10月5日(月)

松沢神奈川県知事と石渡前鎌倉市長が玉井文化庁長官を訪問し、実施

○ 推薦要請後、国と推薦書作りを進めるため、推薦書作成委員会を立ち上げました。

【その評価】

○ 推薦要請が実施され、国との連携がさらに深まり、推薦書を作成するための推薦書作成委員会が立ち上がったことは、世界遺産登録に向けての大きな前進であり、十分に評価できる。

(今後の方針)

○ 本取組事項(国への推薦要請を実施)は、目的を達成したが、その最終的な目標である世界遺産登録に向けて、推薦書の作成など、諸準備を進めてまいります。

○取組事項名 ③広報・啓発活動の充実を図ります。

(取組結果およびその評価)

【取組結果】

○ 広報コーナーの設置

「世界遺産登録推進広報コーナー」を鎌倉生涯学習センター1階部分へ開設し、広報機能の充実を図りました。(再掲)

10月16日(金)開設

○ 鎌倉ケーブルテレビで世界遺産特集を組み、8回分の番組を作成して放映しました。

放映時期 9月19日～11月13日

【その評価】

○ 広報・啓発活動の充実を図るため、広報コーナーの設置やケーブルテレビでの番組作成が行われたことは、十分に評価できます。

(今後の方針)

○ ひきつづき、様々な広報媒体などを活用し、広報・啓発活動の充実を図ってまいります。